

## 2012.6.21 石田九段今週のつぶやき

5月9日が私の最後の対局となりました。  
これで正式に引退することに。でも引退という言葉はちょっと淋しく、もう使いたくありません。  
ただ、正式対局がないだけで指導対局他、将棋は死ぬまでいくらでも指せるのです。  
私にはまだ後進の育成と普及の使命が残されています。

5月9日終局後の様子はモバイル中継、梅記者のレポートが印象的なので引用させて頂き、今週の結びとします。

(日本将棋連盟モバイル 携帯中継 5月9日 梅記者)

---

石田九段「昔の時代にやっていたスズメ指しをやって終わろうと考えていたんです。  
もちろん勝ちたい気持ちもありましたが、覚悟はしていたんですよ、これが最後になるだろうと。  
少し前から深夜まで体力が続かなくなり、引退の制度がなくてもこのタイミングで辞めていただろうとも思います。  
正直言って限界でした。

しかし、本当に引退となると…。もうできないんだね。悲しいね。奨励会に入って、丁度50年。5月ってのも同じ、丁度半世紀だよ。  
いい時代に生きて、悲喜交々。いい棋士人生だった。  
何事にも終わりはくるよ、今までも普及には力を入れてきたけれども、これからはより普及に力を入れて頑張っていきたいですね」

インタビューを終えると、距離を置いて静かに聞いていた石田門下の勝又六段・門倉四段・高見四段・奨励会員と、  
飯塚七段が「お疲れ様でした」と石田九段に歩み寄った。

丁度名人戦の対局が終わったようで、解説会を行っていた下の道場から大きな拍手が聞こえてきた。  
石田九段が「終わったのか…」とつぶやきながら階段を降りていく姿と、石田門下の棋士・奨励会員が後に続く姿は  
非常に印象的だった。

石田は今日引退するが、その魂を受け継いだ石田門下の棋士・奨励会員達の今後の活躍にも期待していきたい。  
石田九段、長い間本当にお疲れ様でした。

---